

# 水産業スマート化推進事業

阿部文彦・土橋靖史・鈴木康治<sup>1)</sup>・宮口大平<sup>1)</sup>

1) 農林水産部 水産振興課

## 目的

水産資源の持続的利用と水産業の成長産業化を両立し、漁業者の所得向上および水産業への新規就業や定着を図るため、スマート技術の活用が期待されている。本事業では、産学官が参画した「みえスマート水産業研究会」において、スマート化に関する最新技術や先進事例の情報共有やスマート水産業の実装に向けた協議を進め、県内水産業のスマート化に寄与することを目的とする。

## 方法

### 1 最新技術や先進事例の情報共有

全国のスマート化に関する最新技術や先進事例を把握するため、セミナー等に参加するとともに、関係者への情報共有や普及啓発のための研修会を開催した。

### 2 スマート水産業の社会実装に向けた協議

県内のスマート化の取組状況や課題等を把握し、情報共有するとともに、課題解決策の検討などスマート水産業の社会実装に向けた協議を行うため、みえスマート水産業研究会委員による研究会を開催した。

## 結果及び考察

### 1 最新技術や先進事例の情報共有

セミナー等へ6回参加し先進事例等の情報収集を行うとともに、スマート水産業に関する研修会を1回開催し漁業者等の関係者へ情報共有を図った(表1)。

### 2 スマート水産業の社会実装に向けた協議

みえスマート水産業研究会を2回開催し、国の水産業のスマート化に向けた取組についての情報共有や県内のスマート水産業の取組状況(ロードマップの実績)の確認及び今後の方向性等について意見交換を行った(表2)。

研究会では、県内水産業のスマート化の状況として、海洋環境データの収集・共有が有効に進んでおり、今後はデータの活用による海況予測への発展が期待されるという意見でまとまった。一方、課題には海洋環境データの収集・共有を継続していくための費用負担のあり方、高額なスマート機器の導入コストや維持管理の仕組みが未確立なものは普及が難しいなどがあげられ、今後スマート化による収支の改善を実証することがスマート水産業の実装のためには重要とされた。

今年度、新たに県内水産業の現場で実践されたスマート化の事例としては、青ノリ養殖におけるIoT観測機器を活用した天然採苗(水温動向をモニタリングしながら最適な時期に養殖網へ種付けを行う)、カキ養殖におけるIoT観測機器及び定置網における水中ドローンの導入(いずれも国の水産業スマート化推進事業を活用)があり、各漁業種類においてスマート水産業の現場実装が導入可能な部分から進んでいると考えられる。

表1. 研修会の開催及びセミナー等参加実績

年月日	内容
2023.5/24~25	第17回養殖場高度化推進研究センター(CAINES)セミナー参加(福井県)
2023.10/18~19	第19回養殖場高度化推進研究センター(CAINES)セミナー視察(大分県)
2023.12/15	日本学術会議公開シンポジウム「水産・海洋分野におけるAIの役割と課題」参加(WEB)
2024.1/17~18	第20回養殖場高度化推進研究センター(CAINES)セミナー参加(鳥羽市)
2024.3/1	デジタル水産業戦略拠点審査委員会「デジタル水産業オンライン研修会」参加(WEB)
2024.3/8	マリンITワークショップ2024こうべ参加(兵庫県)
2024.3/18	第1回スマート水産業研修会開催(対面・WEB:参加者32名) ・水揚げ情報データベースの構築、スマート水産業普及推進事業について

表2. 研究会の開催実績

年月日	内容
2023.9/6	第1回みえスマート水産業研究会(対面・WEB) ・国のスマート水産業の取組 ・三重県における水産業のスマート化に向けた取組方向等
2024.3/18	第2回みえスマート水産業研究会(対面・WEB) ・三重県版スマート水産業等の展開に向けたロードマップの実績確認